ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	二俣　泉

主な担当科目	音楽療法テクニックⅤ,音楽療法各論Ⅰ,音楽療法の理論と技法論Ⅱ,音楽療法実践演習Ⅰ,音楽療法実践特別演習Ⅰ,音楽療法実践演習Ⅱ,音楽療法テクニックⅣ,音楽療法テクニックⅥ,施設実習Ⅰ,卒業論文（原著購読含む）,音楽療法各論特殊講義Ⅰ,音楽療法の理論と技法論特殊講義Ⅱ,音楽療法実践特別演習Ⅱ,音楽療法技能特別演習,音楽療法上級実習Ⅰ,音楽療法上級実習Ⅱ（障がい児）,音楽療法指導研究,音楽芸術運営特別演習②,博士論文演習①
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	①2019年度から学生の適応能力と学習意欲を高めるための「社会的スキル」と「心理的な柔軟性」を育成する教育を実施してきたが、本年度はさらに「価値」について考える教育に（とくに学部2年生・3年生を対象に）力を注ぐ。 ②学生の研究活動をより発展させる。具体的には、日本音楽療法学会、世界音楽療法大会への研究発表の応募、自主シンポジウムの企画提案などに向けた指導を行なう。 ③担任を担当する学生に対しては、個別面談を複数回実施する。また、欠席が目立つ学生については頻回に面談を行ない（原則として必ず専任教員2名で実施）、本人の状態を把握し、退学防止プロジェクトとも連携しつつ指導を実施する。
2022年の教育に関する自己評価	①「価値」について考える教育を実施した結果、学部2年生・3年生は、クラスメイトの関係、チームワークが良好であり、学業についての動機づけが高く保たれたと思われる。とりわけ3年生については、音楽療法の実習に対する取り組みが目覚ましかった（全員ほとんど欠席がなく、十分な準備をもって実習に臨んでいた。チーム内で問題が生じた場合も、チーム内でそれを解決するように懸命に努力を行なっていた。また必要に応じて教員に相談を求めることもためらわず、人間的に成熟した取り組みであった）。 ②学生の研究活動の充実はかなり達成できた。2022年度に音楽療法の博士課程に2名の入学者（両名とも、本学修士課程修了者）があったのは、これまでの研究活動発展への努力の成果の一つと考えられる。また、日本音楽療法学会第22回大会（広島）で複数の本学学生が発表を行なった。さらに、2023年7月に開催される第17回世界音楽療法大会（バンクーバー）に、2名の修士課程の学生、2名の博士課程の学生が演題を応募し採択された（なお、日本音楽療法学会学術大会と第17回世界音楽療法大会については、特別評価項目にも記載した）。 ③3年生までに欠席が多く、卒業が危ぶまれた4年生3名に対して、白川専任講師と共に頻回の面談指導を行ない、かつ当該の学生の卒業論文を指導する教員との連携を密にして指導を行なった。その結果、当該の学生を含む4年生全員が卒業論文を無事提出できた。

2022年のFD活動に関する自己評価	音楽療法分科会の2022年度の第1回FD研修会では、二俣から「音楽療法士に必要な能力とは－能力の『構造』について－」と題する話題提供を行なった。近年、高等教育に求められている「知識のコンテンツ」の教育から「コンピテンシー」「リテラシー」の教育への転換について、音楽療法の教育における「コンピテンシー」「リテラシー」について、音楽療法学内組織の専任・非常勤教員に伝えた。2022年度の第2回FD研修会では、音楽療法の国家資格化に関する情報を共有した。こうした情報共有によって、学生の能力を高めるための科目同士の繋がりの重要性について、教員感で共有できたと考えられる。その結果が、上記の「教育領域に関する自己評価」および「特別評価項目」で述べたように、複数の学生の学会演題（国際学会を含む）への応募、出席不良学生の減少及びドロップアウトの抑止、音楽療法士資格取得への動機の向上、卒後の対人援助職への就職希望者増加等に結びついていると思われた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	上記したように、2回のFD研修会での情報の共有（個々の科目での教育は、知識・技術の教育を通じて、知識・技術を運用するための能力（コンピテンシー、リテラシー）を育てることであること、科目間のつながりを意識して、個々の科目の授業での教育にあたること）を行なった。それに加え、専任教員・非常勤教員から、頻回に学生の様子を聴き、逐次、どのような方針で教育を進めるかを相談することを心がけた。

科目名－クラス名

音楽療法テクニックⅤ

曜日時限

水 2時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	前期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	50	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次選択科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
本講では、音楽療法の実践に必要な「臨床的音楽技能」を学ぶ。音楽療法の実践では、対象者（児）に合わせた臨機応変な即興性を持つ技術が必要だが、音楽の基礎的な技術の上に立って、臨床的な音楽技術を身に付けることを目的とする。

学修成果

①音楽のイディオム・スタイルをよく理解し、音楽の特性をふまえて音楽療法実践に活かすことができる。②即興演奏では、他者とのコミュニケーションを図りながら音楽を創り上げる楽しさや共有感を表現することができる。

授業展開と内容

第1回　授業ガイダンス(授業の進め方 評価方法　等)
ペンタトニックを用いた即興（1）即興演奏に慣れる

第2回　ペンタトニックを用いた即興（2）即座にモチーフを作り出すための原則

第3回　音楽療法におけるオリジナル曲の体験・活用方法（1）

第4回　音楽療法におけるオリジナル曲の体験・活用方法（2）

第5回　教会旋法を用いた即興（1）各旋法の特徴を味わい、言語によって表現する

第6回　教会旋法を用いた即興（2）各旋法の特徴を踏まえた表現を探求する

第7回　複数の音程の重音を用いた即興・無調の即興（1）

第8回　複数の音程の重音を用いた即興・無調の即興（2）

第9回　調性の音楽を用いた即興（1）

第10回　調性の音楽を用いた即興（2）

第11回　音楽療法のためのオリジナル曲の創作（1）

第12回　音楽療法のためのオリジナル曲の創作（2）

第13回　対象者に合わせるテクニック（1）

第14回　対象者に合わせるテクニック（2）

第15回　授業まとめ

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

音楽療法における音楽技術の学修は、何よりも自己を表現することに重きをおき、積極的に学んで欲しい。得意なことも不得意なこともあると思うが、対象者と音楽をするためには、恥ずかしさを捨てて、自己を洞察していくことも身に付けて欲しい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回ではないが、宿題にはきちんと取り組むこと。また、音楽技術は練習すればするほど高められるので、予習や復習に努めること。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする

教科書・参考書

教科書：生野里花ら編著「音楽療法曲集・静かな森の大きな木」（春秋社）
参考書：ノードフら著「子どものためのプレイソング」（音楽之友社）

科目名－クラス名

音楽療法各論Ⅰ

曜日時限

木 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	2～	前期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、専門知識などを獲得するための科目。
神経発達症の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例、対象児の保護者への対応等について学ぶ。
この領域への音楽療法を実施するにあたっての知識を得ることを目的とする。

学修成果

神経発達症の主なものについて、その特徴を述べることができる。神経発達症の子どもに対して、簡単な音楽活動の提供ができるようになる。障がい児の置かれている環境に応じて、音楽療法の目的を設定し活動が実践できるようになる。

授業展開と内容

第1回　授業全体の概要の説明および子どもの発達について考える。ヒトという種と他の動物との相違（環境からの影響を大きく受ける、環境に適応する能力が高い）について説明する。

第2回　神経発達症の子どもの特徴：神経発達症とは何か、その種類（知的発達症、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如多動症）、およびその支援方法について学ぶ。特別支援教育の理念と実際にも言及する。

第3回　神経発達症の子どもへの音楽療法の「流れ」（アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価）について学ぶ。

第4回　応用行動分析学に基づく音楽療法（1）：応用行動分析学の基礎、基本的な用語、介入の方法

第5回　応用行動分析学に基づく音楽療法（2）：応用行動分析学に基づく音楽療法の実際

第6回　応用行動分析学に基づく音楽療法（3）：応用行動分析学に基づく音楽療法の事例の紹介

第7回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（1）：歴史・方法・基本概念を学ぶ

第8回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（2）：エドワードの症例その他、実際の例を知る。

第9回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（3）：プレイソング、音楽劇「ピフ・パフ・ポールトリー」の体験

第10回　発達論に基づく音楽療法（1）：子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。

第11回　発達論に基づく音楽療法（2）：音楽療法実践に大きな影響を与えてきた、宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について学ぶ。

第12回　発達論に基づく音楽療法（3）：宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」に基づく音楽療法実践の方法について学ぶ

第13回　折衷主義：複数の理論・アプローチをどう使い分けるかについて学ぶ

第14回　保護者の支援について：保護者に対するカウンセリング、ペアレント・トレーニング、親子での音楽療法などについて

第15回　授業まとめ・課題作成

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義

を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

大学外で行われる学会、講習会に積極的に参加することが望ましい。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：「音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル」（二俣泉・鈴木涼子著、春秋社）

科目名－クラス名

音楽療法各論Ⅰ

曜日時限

木 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	2～	前期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、専門知識などを獲得するための科目。
神経発達症の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例、対象児の保護者への対応等について学ぶ。
この領域への音楽療法を実施するにあたっての知識を得ることを目的とする。

学修成果

神経発達症の主なものについて、その特徴を述べることができる。神経発達症の子どもに対して、簡単な音楽活動の提供ができるようになる。障がい児の置かれている環境に応じて、音楽療法の目的を設定し活動が実践できるようになる。

授業展開と内容

第1回　授業全体の概要の説明および子どもの発達について考える。ヒトという種と他の動物との相違（環境からの影響を大きく受ける、環境に適応する能力が高い）について説明する。

第2回　神経発達症の子どもの特徴：神経発達症とは何か、その種類（知的発達症、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如多動症）、およびその支援方法について学ぶ。特別支援教育の理念と実際にも言及する。

第3回　神経発達症の子どもへの音楽療法の「流れ」（アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価）について学ぶ。

第4回　応用行動分析学に基づく音楽療法（1）：応用行動分析学の基礎、基本的な用語、介入の方法

第5回　応用行動分析学に基づく音楽療法（2）：応用行動分析学に基づく音楽療法の実際

第6回　応用行動分析学に基づく音楽療法（3）：応用行動分析学に基づく音楽療法の事例の紹介

第7回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（1）：歴史・方法・基本概念を学ぶ

第8回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（2）：エドワードの症例その他、実際の例を知る。

第9回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（3）：プレイソング、音楽劇「ピフ・パフ・ポールトリー」の体験

第10回　発達論に基づく音楽療法（1）：子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。

第11回　発達論に基づく音楽療法（2）：音楽療法実践に大きな影響を与えてきた、宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について学ぶ。

第12回　発達論に基づく音楽療法（3）：宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」に基づく音楽療法実践の方法について学ぶ

第13回　折衷主義：複数の理論・アプローチをどう使い分けるかについて学ぶ

第14回　保護者の支援について：保護者に対するカウンセリング、ペアレント・トレーニング、親子での音楽療法などについて

第15回　授業まとめ・課題作成

第16回
第17回
第18回
第19回
第20回
第21回
第22回
第23回
第24回
第25回
第26回
第27回
第28回
第29回
第30回

履修上の注意

毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義

を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

大学外で行われる学会、講習会に積極的に参加することが望ましい。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：「音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル」（二俣泉・鈴木涼子著、春秋社）

科目名－クラス名

音楽療法の理論と技法論Ⅱ

曜日時限

金 1時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	2～	後期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。

学修成果

音楽療法の様々な理論について、対象者の特性に対応させて理解できるように体験を取り入れて学ぶ。理論、動画の呈示、演習を統合させて実感を持って学び、音楽療法の理論と技法について理解した内容を説明することができるようになる。また音楽療法の関係領域との連携に関する理解とともに、説明できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス・音楽療法とは何か（狭義の音楽療法・広義の音楽療法、音楽療法の理論の概要、音楽療法理論と技法論Iの内容の確認）
第2回	身体へのアプローチ（身体リハビリテーション、治療の補助）、心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（１）基礎概念、治療アプローチ
第3回	心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（２）分析的音楽療法の歴史と介入方法
第4回	心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（３）転移関係について
第5回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（１）基礎概念、治療アプローチ
第6回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（２）この理論に基づく実践の紹介
第7回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（３）行動療法の第３の波、マインドフルネスと音楽療法、RMT
第8回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（１）基礎概念と歴史、介入プロセス
第9回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（２）事例の紹介
第10回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（３）事例の紹介
第11回	心へのアプローチ（トランスパーソナル心理学と音楽療法、GIM）（１）トランスパーソナル心理学の歴史、音楽療法への応用
第12回	心へのアプローチ（トランスパーソナル心理学と音楽療法、GIM）（2）GIMを用いた事例の紹介
第13回	社会へのアプローチ（コミュニティ音楽療法）
第14回	日本独自のアプローチ（集団歌唱療法、感覚と運動の高次化理論、ミュージック・ケア）
第15回	授業まとめ・変化し続ける音楽療法・スペクトラム（連続体）としての音楽療法
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業はテキストの各項目および配付の資料を読んで受講すること。テキスト・配付資料は、繰り返し読むことで着実に理解をして授業に臨むこと。学外の音楽療法の研究会・学会等に2回以上は参加することが望ましい。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳「新訂増補版・音楽療法をまなぶ」アカデミアミュージック（購入の必要あり）
参考図書：デイビスら「音楽療法入門」一麦出版、宮本啓子他著「音楽療法を知る-その理論と技法-」杏林書院、二俣泉「音楽療法士サバイバル・ブック-幸福な職業生活のための10章-」杏林書院（購入は必須ではないが、３年次以後の実習、音楽療法士の資格試験で必ず必要となる書籍であるので、購入を勧める）

科目名－クラス名

音楽療法実践演習Ⅰ

曜日時限

火 4時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	前期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次必修科目で、専門知識、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
本授業は、音楽療法のセッションで求められる様々な実践的な能力を身に着けることを目的とする。特に、施設実習Ⅱで体験する成人への音楽療法、高齢者への音楽療法、子どもへの音楽療法で実践される様々な活動について、実習の経験に基づいて活動の内容を説明、発表する。また、模擬的活動を通して対象者とのかかわりについて、再確認をする。

学修成果

音楽療法の主な領域（子ども、成人、高齢者）における基礎的な音楽活動を創作し、実践できるようになる。対象者に合ったプログラムを作ることができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス：（授業の目的、内容、評価について）、記録の書き方（大山、 白川、 深野、二俣）
第2回	医療領域の実践演習①：歌唱活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第3回	医療領域の実践演習②：楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第4回	医療領域の実践演習③：医療領域の演習のまとめ（大山、 白川、 深野、二俣）
第5回	対象者に合わせた音楽療法セッションの始まりのうた、終わりのうた（大山、 白川、 深野、二俣）
第6回	高齢者領域の実践演習①：曲目の検討（大山、 白川、 深野、二俣）
第7回	高齢者領域の実践演習②：歌唱活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第8回	高齢者領域の実践演習③：身体活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第9回	第1クールのフィードバック（大山、 白川、 深野、二俣）
第10回	高齢者領域の実践演習④：楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第11回	児童領域の実践演習①：親子一緒の身体活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第12回	児童領域の実践演習②：親子一緒の楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第13回	文献検索ガイダンス（特別講師、大山、 白川、 深野、二俣）
第14回	児童領域の実践演習③：楽器その他の教材を用いた演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第15回	第2クールフィードバックと、実践演習のまとめ（大山、 白川、 深野、二俣）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

演習を通して見えてくる自身の課題の解決に向けて、各自が努力し取り組むこと。内容は、学生の理解度や進度により変わることがある。なお、評価内の「課題提出」とは各回に課すレポートを指し、「成果発表」とは各回の演習の発表を指す。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

必要に応じ、適宜プリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽療法実践特別演習Ⅰ

曜日時限

火 4時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	前期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次必修科目で、専門知識、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
本授業は、音楽療法のセッションで求められる様々な実践的な能力を身に着けることを目的とする。特に、施設実習Ⅱで体験する成人への音楽療法、高齢者への音楽療法、子どもへの音楽療法で実践される様々な活動について、実習の経験に基づいて活動の内容を説明、発表する。また、模擬的活動を通して対象者とのかかわりについて、再確認をする。

学修成果

音楽療法の主な領域（子ども、成人、高齢者）における基礎的な音楽活動を創作し、実践できるようになる。対象者に合ったプログラムを作ることができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス：（授業の目的、内容、評価について）、記録の書き方（大山、 白川、 深野、二俣）
第2回	医療領域の実践演習①：歌唱活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第3回	医療領域の実践演習②：楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第4回	医療領域の実践演習③：医療領域の演習のまとめ（大山、 白川、 深野、二俣）
第5回	対象者に合わせた音楽療法セッションの始まりのうた、終わりのうた（大山、 白川、 深野、二俣）
第6回	高齢者領域の実践演習①：曲目の検討（大山、 白川、 深野、二俣）
第7回	高齢者領域の実践演習②：歌唱活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第8回	高齢者領域の実践演習③：身体活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第9回	第1クールのフィードバック（大山、 白川、 深野、二俣）
第10回	高齢者領域の実践演習④：楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第11回	児童領域の実践演習①：親子一緒の身体活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第12回	児童領域の実践演習②：親子一緒の楽器活動の演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第13回	文献検索ガイダンス（特別講師、大山、 白川、 深野、二俣）
第14回	児童領域の実践演習③：楽器その他の教材を用いた演習（大山、 白川、 深野、二俣）
第15回	第2クールフィードバックと、実践演習のまとめ（大山、 白川、 深野、二俣）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

演習を通して見えてくる自身の課題の解決に向けて、各自が努力し取り組むこと。内容は、学生の理解度や進度により変わることがある。なお、評価内の「課題提出」とは各回に課すレポートを指し、「成果発表」とは各回の演習の発表を指す。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

必要に応じ、適宜プリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽療法実践演習 II

曜日時限

火 4時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	後期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次必修科目であり、専門知識などの獲得を目指す。本授業は、音楽療法のセッションで求められる実践的な技術や能力を身に着けることを目的とする。特に、施設実習 II で体験をする子ども、成人、高齢者への各音楽療法において実践される様々な活動について、実習での経験および模擬的活動を通して、音楽を介した対象者との関わりを再確認するとともに、療法的な活動の展開及び音楽の使用について学ぶ。

学修成果

音楽療法の主な領域（子ども、成人、高齢者）における基礎的な音楽活動を創作し、実践できるようになる。対象者に合ったプログラムの作成および療法的な音楽の使用について理解することができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス：（授業の目的、内容、評価について）（大山、白川、深野、 二俣） 音楽療法大喜利（１）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。
第2回	音楽療法大喜利（２）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第3回	音楽療法大喜利（３）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第4回	音楽療法大喜利（４）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第5回	第３クールのフィードバック（大山、白川、深野、 二俣）
第6回	ピア・スーパービジョン（１）（大山、白川、深野、 二俣）
第7回	ピア・スーパービジョン（２）（大山、白川、深野、 二俣）
第8回	ピア・スーパービジョン（３）（大山、白川、深野、 二俣）
第9回	ピア・スーパービジョン（４）（大山、白川、深野、 二俣）
第10回	第４クールのフィードバック（大山、白川、深野、 二俣）
第11回	音楽療法実践と研究活動（１）（大山、白川、深野、 二俣）
第12回	音楽療法実践と研究活動（２）（大山、白川、深野、 二俣）
第13回	音楽療法実践と研究活動（３）（大山、白川、深野、 二俣）
第14回	音楽療法実践と研究活動（４）（大山、白川、深野、 二俣）
第15回	実践演習のまとめ（大山、白川、深野、 二俣）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

演習を通して見えてくる自身の課題の解決に向けて、各自が努力し取り組むこと。内容は、学生の理解度や進度により変わることがある。なお、評価内の「課題提出」とは各回に課すレポートを指し、「成果発表」とは各回の演習の発表を指す。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

必要に応じ、適宜プリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽療法テクニックⅣ

曜日時限

木 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	後期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	60	40	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目である。
１～６、および11～15では、音楽療法実践で必要な歌唱伴奏スキルを学ぶ。（担当：二俣）
７～10では、児童の音楽療法のためのオリジナル楽曲および既成曲のアレンジの使用法、および作曲と既成曲活用の方法について学ぶ。（担当：鈴木）

学修成果

１～６、および11～15では、音楽療法実践の適切な歌唱伴奏ができるようになる。７～10では、児童の音楽療法のためのシンプルなオリジナル楽曲が創作できるようになる。

授業展開と内容

第1回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（１）和音の響きを美しく演奏する方法（担当：二俣）
第2回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（２）ガイドメロディを「歌って演奏する」ための原則（担当：二俣）
第3回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（３）音楽的な高揚をもたらすための原則（担当：二俣）
第4回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（４）曲のイメージに合わせた伴奏パターン① アルペジオ、ロック（４ビート、８ビート）（担当：二俣）
第5回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（５）曲のイメージに合わせた伴奏パターン② ロック（８ビート）、ロッカ・バラード（担当：二俣）
第6回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（６）曲のスタイルに応じたグルーブを表現する（担当：二俣）
第7回	児童の音楽療法におけるオリジナル楽曲・既成曲をアレンジした使用法（１）（担当：鈴木、集中講義） あいさつ、身体運動、動作模倣を扱った活動
第8回	児童の音楽療法におけるオリジナル楽曲・既成曲をアレンジした使用法（２）（担当：鈴木、集中講義） コミュニケーション行動、発声、発語の獲得を目指した活動
第9回	児童の音楽療法におけるオリジナル楽曲・既成曲をアレンジした使用法（３）（担当：鈴木、集中講義）
第10回	児童の音楽療法におけるオリジナル楽曲・既成曲をアレンジした使用法（４）（担当：鈴木、集中講義）
第11回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（７）曲のスタイルに応じた、応用的な伴奏パターンを学ぶ。（担当：二俣）
第12回	鍵盤楽器による音楽的な歌唱伴奏のテクニック（８）曲のスタイルに応じた、応用的な伴奏パターンを学ぶ。（担当：二俣）
第13回	歌唱による音楽療法のケーススタディ（１）高齢者の例。（担当：二俣）
第14回	歌唱による音楽療法のケーススタディ（２）精神科、緩和ケアの例。（担当：二俣）
第15回	音・音楽を通した活動の意義や音・音楽の活用のまとめ（レポート課題作成）（担当：二俣）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

１～６、および11～14では、毎回の授業後、Teamsの課題に自分の演奏した動画をアップロードすること（合計で10本の動画をアップロードする。課題の内容、締め切りについては授業時に伝える）。
７～10では、児童の音楽療法に関する課題に取り組み提出する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する課題については、最低60分以上は取り組み、入念に準備をした上で授業に臨むこと。
各学生に、達成できたこと、今後の課題について具体的に指摘する。

教科書・参考書

教科書（購入すること）：小森谷清ら編「歌伴のすべて」（全音）
参考書（購入は必須ではないが３年次以後の実習では必要となるので、購入を勧める）：二俣泉・鈴木涼子「音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル」（春秋社）、生野・二俣編「音楽療法曲集・静かな森の大きな木」（春秋社）
参考書は、音楽療法とその関連領域の文献を適宜紹介します。また、必要に応じて随時プリントを配付します。、

科目名－クラス名

音楽療法テクニックVI

曜日時限

水 2時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	後期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次選択科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
本講では、音楽療法の実践における応用的な「臨床的音楽技能」を学ぶ。音楽療法の実践では、対象者（児）に合わせた臨機応変な即興性を持つ技術が必要だが、音楽の基礎的な技術の上に立ち、豊かな音楽を用い、なおかつ対象者の様々な反応に合わせて柔軟に対応できる能力を身につけることを目指す。即興の実演、ロール・プレイを中心とした実践的な内容の授業である。

学修成果

①音楽のイディオム・スタイルをよく理解し、音楽の特性をふまえて音楽療法実践に活かすことができる。②即興演奏では、対象者の自発性を引き出し、対象者との活発で意味深いやりとりを展開できるようになる。

授業展開と内容

第1回　声による即興（1）
第2回　声による即興（2）
第3回　ジャズ、ブルースの要素を用いた即興（1）
第4回　ジャズ、ブルースの要素を用いた即興（2）
第5回　既成曲を活用した活動の体験
第6回　既成曲を活用した活動の創作（1）
第7回　既成曲を活用した活動の創作（2）
第8回　声による即興（3）
第9回　スペイン風音楽による即興（1）
第10回　スペイン風音楽による即興（2）
第11回　全音音階による即興
第12回　ラテン音楽の要素を活用した即興（1）
第13回　ラテン音楽の要素を活用した即興（2）
第14回　授業まとめ（1）多様なスタイル、イディオムをいかに使い分けるか
第15回　授業まとめ（2）自由に即興する
第16回
第17回
第18回
第19回
第20回
第21回
第22回
第23回
第24回
第25回
第26回
第27回
第28回
第29回
第30回

履修上の注意

音楽療法における音楽技術の学修は、何よりも自己を表現することに重きをおき、積極的に学んで欲しい。得意なことも不得意なこともあると思うが、対象者と音楽をするためには、恥ずかしさを捨てて、自己を洞察していくことも身に付けて欲しい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回ではないが、宿題にはきちんと取り組むこと。また、音楽技術は練習すればするほど高められるので、予習や復習に努めること。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：生野里花ら編著「音楽療法曲集・静かな森の大きな木」（春秋社）
参考書：ノードフら著「子どものためのプレイソング」（音楽之友社）

科目名－クラス名

施設実習Ⅰ

曜日時限

木 2時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目である。技術力、専門知識、表現力、実践的活動能力の獲得を目指す。
概要：本講は、人間関係のワーク、DVD分析、音楽療法の実践場面の見学、報告から成る。目標：①対人援助に求められるコミュニケーション・スキルを体験を通して学ぶ。②音楽療法実践の基本的・具体的知識を学ぶ。③対象の行動を理解するのに必要な観察・記述の方法を学ぶ　④自己理解・他者理解を深める。

学修成果

①音楽療法実践に不可欠なコミュニケーション・スキル、社会的スキルは何かを知り、スキルに基づいた行動を実行できるようになる。　②音楽療法実践の基本的な知識（介入・支援・関係性の「構造」、研究を基礎とした実践であること）を理解し、説明できるようになる。③音楽療法実践における対象者の行動観察の視点を把握し、適切に記述できるようになる。④自分の思考・感情を言語化し、他者に伝えることができるようになる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス（見学実習先概要の説明、実習記録、前期サインアップ、他）
専門的な支援とは何か、音楽療法の支援の構造

第2回　音楽療法と音楽教育・演奏会との相違、音楽療法と伝統医療における音楽の使用との相違
学内音楽療法室Andanteについて（倫理含む）／さまざまな記録・観察

第3回　フォーマルな音楽療法とカジュアルな音楽療法の相違、幸福心理学の知見から考える「幸福感」を高める条件・介入について
DVD分析①：行動と観察（児童領域）

第4回　対人コミュニケーションの基礎（１）傾聴、歌唱伴奏におけるリードにおける傾聴スキルの応用
DVD分析②：観察と記録（児童領域）

第5回　対人コミュニケーションの基礎（２）質問の方法（閉じられた質問・開かれた質問）
DVD分析③：目標、活動、音楽の使い方（児童領域）　／　見学実習①（Andante）

第6回　対人コミュニケーションの基礎（３）相手の発言の是認・リフレーミング
DVD分析④：環境設定（児童領域）　／　見学実習②（Andante）

第7回　対人コミュニケーションの基礎（４）相手の発言の機能の推測
見学報告会の準備

第8回　対人コミュニケーションの基礎（５）相手の発言の是認・リフレーミング
見学報告会（1,2,3グループ）

第9回　対人コミュニケーションの基礎（６）アサーション
見学報告会（4,5グループ）、見学①②のまとめ

第10回　DVD分析⑤：記録の書き方／　見学実習③（Andante）

第11回　DVD分析⑥：記録の整理　／見学実習④（Andante）

第12回　見学報告会準備

第13回　見学報告会（1,2,3グループ）

第14回　見学報告会（4,5グループ）

第15回　後期にむけて（見学実習先概要の説明、後期サインアップ、卒論発表聴講に向けて、他）

第16回　様々な音楽療法の臨床および研究について調べる（研究の種類、ほか）

第17回　音楽療法の臨床および研究について調べる（対象者、目的、方法など）／調査に関する成果発表

第18回　音楽療法の臨床および研究の調査に関する成果発表

第19回　実際の音楽療法事例研究および研究発表を知る ／※課題レポート作成
／　見学実習⑤（学外、Andante）

第20回　見学報告会準備

第21回　見学報告会（1,2,3,グループ）

第22回　見学報告会（4,5,6グループ）／見学実習⑥（学外、Andante）

第23回　見学報告準備

第24回　見学報告会（1,2,3グループ）

第25回	見学報告会（4,5,6グループ）、アプリケーションプラン作成について
第26回	アプリケーションプラン作成　／見学実習⑦（学外、Andante）
第27回	アプリケーションプラン作成・発表準備
第28回	AED講習
第29回	アプリケーションプラン発表：1日目
第30回	アプリケーションプラン発表：2日目　／※課題レポート作成

履修上の注意

①見学実習にきちんと参加できるよう体調管理に努めて下さい。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡して下さい。②見学に際しては、各見学先の注意事項を守り真摯な態度で参加して下さい。また、適切な服装で参加して下さい。③DVD分析では観察レポート、見学実習では実習記録を作成し提出して下さい。※評価欄の「課題提出」は上記提出物等、「成果発表」は各見学報告とアプリケーションプランの発表を指します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

各自、実習記録の作成や見学報告会等の準備をしっかりをおこなって下さい。

教科書・参考書

教科書：二俣泉「音楽療法士サバイバル・ブック」（杏林書院）
参考書：2021年度音楽療法施設実習報告書
その他資料：授業内で適宜配付します。

科目名－クラス名

卒業論文（原著講読含む）　音楽療法Ｄ

曜日時限

火 3時限

水 1時限

水 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	4〜	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	85	0	15	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース4年次必修科目で、専門知識や情報活用能力などを獲得するための科目です。音楽療法に関する先行文献等を踏まえてテーマを設定し、研究計画を立て、データ解析を行い、卒業論文を完成する。学生は音楽療法の理論と技法について4年間学習してきた内容を基礎として、担当教員の指導のもと、自らが取り組むテーマを決定し、その考えを論理的に文章化する。また、その経過や結果を、口頭にて発表する。

学修成果

講読した文献の内容を適切に要約、文章化できる。卒業論文を適切なテーマに基づいて論理的に展開し、かつ学術的な書式を踏まえて執筆できる。中間発表会、卒業論文発表会において、研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。

授業展開と内容

第1回　前期のガイダンス　卒論マニュアルの説明、執筆の流れ、口頭発表について

第2回　研究論文の書き方1　文献の検索について1　（特別講師）

第3回　研究論文の書き方2　論文の書き方（卒論マニュアル）、テーマの設定について、文献の検索について

第4回　研究論文の書き方3　研究倫理について（昭和音楽大学倫理委員会）、日本音楽療法学会のガイドラインから

第5回　研究論文の書き方4　文献の検索について、文献の引用/参考について

第6回　研究論文の書き方5　音楽療法の様々な研究について

第7回　研究論文の書き方6　テーマの設定、論文の構成やアウトラインについて、データーの管理

第8回　研究論文の書き方7　研究の背景・意義について

第9回　研究論文の書き方8　研究の目的について

第10回　研究論文の書き方9　研究の方法について

第11回　研究論文の書き方10　研究の結果について

第12回　研究論文の書き方11　研究の考察について

第13回　研究論文の書き方12　口頭発表について、PPTの作成

第14回　デザイン発表

第15回　まとめ　夏季期間中の研究の進め方について

第16回　後期のガイダンス　中間発表（口頭発表）の準備、要旨の準備

第17回　中間発表の準備2, 要旨（Ⅰ研究の意義/背景と目的、Ⅱ研究の方法、Ⅲ今後の予定）の準備

第18回　中間発表の準備3,　データの収集と執筆1：はじめに（序論）の具体的な書き方

第19回　中間発表（※履修上の注意を参照）

第20回　データの収集と執筆2：本論の構成、章立ての具体的な書き方

第21回　データの収集と執筆3：引用文献、参考文献の具体的な書き方

第22回　データの収集と執筆4：図、表の具体的な入れ方

第23回　データの収集と執筆5：中心となる本論の確認

第24回　結果の分析と考察1：結果のまとめ方

第25回　結果の分析と考察2：考察の書き方

第26回　結果の分析と考察3：おわりに（結論）の書き方

第27回　卒業論文提出に向けた準備1：文字数、論理の一貫性の確認

第28回　卒業論文提出に向けた準備 2 :誤字脱字、参考引用文献の確認※卒業論文提出の日時と提出方法については、ガイダンスにて説明

第29回　要旨提出と卒論口頭発表会の準備：要旨の書式の確認、最終のプレゼンテーションに向けて

第30回	卒論発表会、卒業論文の最終確認※卒論発表会、卒業論文の最終提出日については、履修上の注意を参照

履修上の注意

テーマや臨床実践の環境等によりシラバスとは異なる進行になることがある。学生は担当教員とよく連絡をとり、1年間の流れを考えて研究を行う。文献講読は積極的・自主的に取り組むこと。4年間の学修の集大成として充実した研究ができるように、地道な取り組みを期待する。卒論の提出にあたっては卒業論文のマニュアルをよく読んで提出すること。提出日、発表の日程は当初の予定から変更することがあるので、各自責任をもって掲示を確認すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

指示されたことだけではなく、自ら考え、担当教員に適宜指導を仰ぎながら、積極的に論文執筆に取り組むこと。
文献の検討および、執筆に少なくとも週240分以上取り組むこと。提出された課題について、各担当からコメントする。

教科書・参考書

適宜提示する。

科目名－クラス名

音楽療法各論特殊講義Ⅰ

曜日時限

木 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、専門知識などを獲得するための科目。
神経発達症の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例、対象児の保護者への対応等について学ぶ。
この領域への音楽療法を実施するにあたっての知識を得ることを目的とする。

学修成果

神経発達症の主なものについて、その特徴を述べることができる。神経発達症の子どもに対して、簡単な音楽活動の提供ができるようになる。障がい児の置かれている環境に応じて、音楽療法の目的を設定し活動が実践できるようになる。

授業展開と内容

第1回　授業全体の概要の説明および子どもの発達について考える。ヒトという種と他の動物との相違（環境からの影響を大きく受ける、環境に適応する能力が高い）について説明する。

第2回　神経発達症の子どもの特徴：神経発達症とは何か、その種類（知的発達症、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如多動症）、およびその支援方法について学ぶ。特別支援教育の理念と実際にも言及する。

第3回　神経発達症の子どもへの音楽療法の「流れ」（アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価）について学ぶ。

第4回　応用行動分析学に基づく音楽療法（1）：応用行動分析学の基礎、基本的な用語、介入の方法

第5回　応用行動分析学に基づく音楽療法（2）：応用行動分析学に基づく音楽療法の実際

第6回　応用行動分析学に基づく音楽療法（3）：応用行動分析学に基づく音楽療法の事例の紹介

第7回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（1）：歴史・方法・基本概念を学ぶ

第8回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（2）：エドワードの症例その他、実際の例を知る。

第9回　ノードフ・ロビンズ音楽療法（3）：プレイソング、音楽劇「ピフ・パフ・ポールトリー」の体験

第10回　発達論に基づく音楽療法（1）：子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。

第11回　発達論に基づく音楽療法（2）：音楽療法実践に大きな影響を与えてきた、宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について学ぶ。

第12回　発達論に基づく音楽療法（3）：宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」に基づく音楽療法実践の方法について学ぶ

第13回　折衷主義：複数の理論・アプローチをどう使い分けるかについて学ぶ

第14回　保護者の支援について：保護者に対するカウンセリング、ペアレント・トレーニング、親子での音楽療法などについて

第15回　授業まとめ・課題作成

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義

を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

大学外で行われる学会、講習会に積極的に参加することが望ましい。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：「音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル」（二俣泉・鈴木涼子著、春秋社）

科目名－クラス名

音楽療法の理論と技法論特殊講義Ⅱ

曜日時限

金 1時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	後期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース2年次必修科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目です。
音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。

学修成果

音楽療法の様々な理論について、対象者の特性に対応させて理解できるように体験を取り入れて学ぶ。理論、動画の呈示、演習を統合させて実感を持って学び、音楽療法の理論と技法について理解した内容を説明することができるようになる。また音楽療法の関係領域との連携に関する理解とともに、説明できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス・音楽療法とは何か（狭義の音楽療法・広義の音楽療法、音楽療法の理論の概要、音楽療法理論と技法論Ⅰの内容の確認）
第2回	身体へのアプローチ（身体リハビリテーション、治療の補助）、心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（１）基礎概念、治療アプローチ
第3回	心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（２）分析的音楽療法の歴史と介入方法
第4回	心へのアプローチ（精神分析と音楽療法）（３）転移関係について
第5回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（１）基礎概念、治療アプローチ
第6回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（２）この理論に基づく実践の紹介
第7回	心へのアプローチ（認知・行動療法と音楽療法）（３）行動療法の第３の波、マインドフルネスと音楽療法、RMT
第8回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（１）基礎概念と歴史、介入プロセス
第9回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（２）事例の紹介
第10回	心へのアプローチ（人間性心理学と音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法）（３）事例の紹介
第11回	心へのアプローチ（トランスパーソナル心理学と音楽療法、GIM）（１）トランスパーソナル心理学の歴史、音楽療法への応用
第12回	心へのアプローチ（トランスパーソナル心理学と音楽療法、GIM）（2）GIMを用いた事例の紹介
第13回	社会へのアプローチ（コミュニティ音楽療法）
第14回	日本独自のアプローチ（集団歌唱療法、感覚と運動の高次化理論、ミュージック・ケア）
第15回	授業まとめ・変化し続ける音楽療法・スペクトラム（連続体）としての音楽療法
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業はテキストの各項目および配付の資料を読んで受講すること。テキスト・配付資料は、繰り返し読むことで着実に理解をして授業に臨むこと。学外の音楽療法の研究会・学会等に2回以上は参加することが望ましい。
授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

教科書：二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳「新訂増補版・音楽療法をまなぶ」アカデミアミュージック（購入の必要あり）
参考図書：デイビスら「音楽療法入門」一麦出版、宮本啓子他著「音楽療法を知る-その理論と技法-」杏林書院、二俣泉「音楽療法士サバイバル・ブック-幸福な職業生活のための10章-」杏林書院（購入は必須ではないが、３年次以後の実習、音楽療法士の資格試験で必ず必要となる書籍であるので、購入を勧める）

科目名－クラス名

音楽療法実践特別演習 II

曜日時限

火 4時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	後期	1

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次必修科目であり、専門知識などの獲得を目指す。本授業は、音楽療法のセッションで求められる実践的な技術や能力を身に着けることを目的とする。特に、施設実習 II で体験をする子ども、成人、高齢者への各音楽療法において実践される様々な活動について、実習での経験および模擬的活動を通して、音楽を介した対象者との関わりを再確認するとともに、療法的な活動の展開及び音楽の使用について学ぶ。

学修成果

音楽療法の主な領域（子ども、成人、高齢者）における基礎的な音楽活動を創作し、実践できるようになる。対象者に合ったプログラムの作成および療法的な音楽の使用について理解することができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス：（授業の目的、内容、評価について）（大山、白川、深野、 二俣） 音楽療法大喜利（１）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。
第2回	音楽療法大喜利（２）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第3回	音楽療法大喜利（３）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第4回	音楽療法大喜利（４）：現場で即座に問題解決をするためのワークを行なう。当日出された現場での課題に対して、数分間の間で解決策を考え、それを披露する。（大山、白川、深野、 二俣）
第5回	第３クールのフィードバック（大山、白川、深野、 二俣）
第6回	ピア・スーパービジョン（１）（大山、白川、深野、 二俣）
第7回	ピア・スーパービジョン（２）（大山、白川、深野、 二俣）
第8回	ピア・スーパービジョン（３）（大山、白川、深野、 二俣）
第9回	ピア・スーパービジョン（４）（大山、白川、深野、 二俣）
第10回	第４クールのフィードバック（大山、白川、深野、 二俣）
第11回	音楽療法実践と研究活動（１）（大山、白川、深野、 二俣）
第12回	音楽療法実践と研究活動（２）（大山、白川、深野、 二俣）
第13回	音楽療法実践と研究活動（３）（大山、白川、深野、 二俣）
第14回	音楽療法実践と研究活動（４）（大山、白川、深野、 二俣）
第15回	実践演習のまとめ（大山、白川、深野、 二俣）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

演習を通して見えてくる自身の課題の解決に向けて、各自が努力し取り組むこと。内容は、学生の理解度や進度により変わることがある。なお、評価内の「課題提出」とは各回に課すレポートを指し、「成果発表」とは各回の演習の発表を指す。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する課題に30分程度取り組んで、準備をした上で授業に臨むこと。
課題について、コメントしフィードバックする。

教科書・参考書

必要に応じ、適宜プリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽療法上級実習Ⅰ（総合）

曜日時限

他

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

対象者のニーズに合わせた音楽療法活動を、メインセラピストとして計画・実践する能力を養い、自らが実践できるようになることを目標とする。学生には、担当教員から定期的なアドバイスを受けつつ、自ら臨床上の問題解決能力を高めることが期待される。

学修成果

メインセラピストとして音楽療法セッションを計画・実践し、問題解決に取り組むことができる。対象者の状態に合わせて、柔軟な対応をとることができる。コ・ワーカー等のスタッフがいる場合、役割分担や指示を考えることができる。自分がおこなった音楽療法セッションについて、他者に説明できるようになる。必要に応じて、他職種や家族と適切な連携がとれるようになる。

授業展開と内容

第1回　前期のオリエンテーション（二俣、羽石、白川）

第2回　対象児者についてのアセスメント①：対象児者の状態・ニーズの把握（二俣、羽石、白川）

第3回　対象児者についてのアセスメント②：ニーズに沿った目標の検討（二俣、羽石、白川）

第4回　対象児者についてのアセスメント③：目標の設定と目標を達成するための活動の検討（二俣、羽石、白川）

第5回　対象児者についてのアセスメント④：セッションの計画立案（二俣、羽石、白川）

第6回　計画に基づきセッションを実践する①：対象児者のランニングアセスメント（二俣、羽石、白川）

第7回　計画に基づきセッションを実践する②：ランニングアセスメントに基づく対象児者の査定（二俣、羽石、白川）

第8回　計画に基づきセッションを実践する③：査定に基づく目標の再検討（二俣、羽石、白川）

第9回　計画に基づきセッションを実践する④：実践された活動の振り返り（1）伴奏について（二俣、羽石、白川）

第10回　計画に基づきセッションを実践する⑤：実践された活動の振り返り（2）使用楽器について（二俣、羽石、白川）

第11回　計画に基づきセッションを実践する⑥：実践された活動の振り返り（3）楽器の提示について（二俣、羽石、白川）

第12回　計画に基づきセッションを実践する⑦：実践された活動の振り返り(4) 治療構造について（二俣、羽石、白川）

第13回　計画に基づきセッションを実践する⑧：実践された活動の振り返り(5) 指示の出し方、言葉かけについて（二俣、羽石、白川）

第14回　計画に基づきセッションを実践する⑨：実践された活動の振り返り(6)　記録について（二俣、羽石、白川）

第15回　計画に基づきセッションを実践する⑩：前期のセッションのまとめ（二俣、羽石、白川）

第16回　後期のオリエンテーション：前期の記録の確認（二俣、羽石、白川）

第17回　前期の活動を振り返り、後期のセッションを計画する（二俣、羽石、白川）

第18回　計画に基づき、セッションを実施する①：計画について確認、検討を行う（二俣、羽石、白川）

第19回　計画に基づき、セッションを実施する②：目標の再検討、活動の再検討（二俣、羽石、白川）

第20回　計画に基づき、セッションを実施する③：具体的な活動の流れの検討と記録の確認（二俣、羽石、白川）

第21回　計画に基づきセッションを実践する④：後期における対象児者のランニングアセスメント（二俣、羽石、白川）

第22回　計画に基づきセッションを実践する⑤：ランニングアセスメントに基づく対象児者の査定の確認（二俣、羽石、白川）

第23回　計画に基づきセッションを実践する⑥：査定に基づく目標の再確認と活動の見直し（二俣、羽石、白川）

第24回　計画に基づきセッションを実践する⑦：実践された活動の振り返り(1)伴奏の再確認（二俣、羽石、白川）

第25回　計画に基づきセッションを実践する⑧：実践された活動の振り返り(2)使用楽器の再確認（二俣、羽石、白川）

第26回　計画に基づきセッションを実践する⑨：実践された活動の振り返り(3)楽器の提示の再確認（二俣、羽石、白川）

第27回　計画に基づきセッションを実践する⑩：実践された活動の振り返り(4)治療構造の再確認（二俣、羽石、白川）

第28回　計画に基づきセッションを実践する⑪：実践された活動の振り返り(5)指示の出し方、言葉かけの再確認（二俣、羽石、白川）

第29回　計画に基づきセッションを実践する⑫：実践された活動の振り返り(6)後期の活動の記録について（二俣、羽石、白川）

第30回　計画に基づきセッションを実践する⑬：後期のセッションを終了、　1年間のまとめをおこなう（二俣、羽石、白川）

履修上の注意

実習の対象児者と日時については、担当教員と相談の上決めていく。1年間、セッションのメインセラピストとして、真摯な気持ちと態度で取り組むこと。担当教員のアドバイスを受けつつ、積極的・自主的な態度で実践に臨むこと。
なお、効果的な学修と教育目標達成のために、必要に応じて、履修学生の状況に合わせて、各回の内容の順序が入れ替わる場合がある。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

Andanteの研究設備（VTR記録等）を積極的に活用しながら、対象児のアセスメント、各セッションの振り返りや次回プログラムの立案と準備をおこなうこと。また、各回のセッション終了後には、速やかに実習記録（実習日誌）を作成すること（提出方法等については担当教員に確認すること）。
なお、前期にアセスメント、後期に評価・まとめを作成し、提出する。

教科書・参考書

必要に応じて紹介する。

科目名－クラス名

音楽療法上級実習Ⅱ（障がい児）

曜日時限

水 3時限

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

本実習は、障がい児を対象としてで実施される実習の授業である。対象者のニーズに合わせた音楽療法活動を計画・実践する能力の獲得を目標とする。学生には、担当教員から定期的なアドバイス（スーパーバイズ）を受けつつ、自ら臨床上の問題解決能力を高めることが期待される。施設職員等と連携をしながら実習をおこなう。

学修成果

メインセラピストとして独力で音楽療法セッションを計画・実践し、問題解決に取り組むことができる。対象者の状態に合わせて、柔軟な対応をとることができる。コ・ワーカーがいる場合、的確に役割を分担し、指示を与えることができる。必要に応じて、介護職員、看護師など施設職員等の専門家と適切な連携がとれるようになる。

授業展開と内容

第1回　前期のオリエンテーション

第2回　対象者についてのアセスメント①：対象児の状態・ニーズの把握

第3回　対象者についてのアセスメント②：ニーズに沿った目標の検討

第4回　対象者についてのアセスメント③：目標の設定と目標を達成するための活動の検討

第5回　対象者についてのアセスメント④：セッションの計画立案

第6回　計画に基づきセッションを実践する①：対象者のランニングアセスメント

第7回　計画に基づきセッションを実践する②：ランニングアセスメントに基づく対象者の査定

第8回　計画に基づきセッションを実践する③：査定に基づく目標の再検討

第9回　計画に基づきセッションを実践する④：実践された活動の振りかえり（1）セッションのリードについて

第10回　計画に基づきセッションを実践する⑤：実践された活動の振り返り（2）伴奏について

第11回　計画に基づきセッションを実践する⑥：実践された活動の振り返り（3）楽器の使用について

第12回　計画に基づきセッションを実践する⑦：実践された活動の振り返り(4) 治療構造について

第13回　計画に基づきセッションを実践する⑧：実践された活動の振り返り(5) 指示の出し方、言葉かけについて

第14回　計画に基づきセッションを実践する⑨：実践された活動の振り返り(6)　記録について

第15回　計画に基づきセッションを実践する⑩：前期のセッションのまとめ

第16回　後期のオリエンテーション：前期の記録の確認

第17回　前期の活動を振り返り、後期のセッションを計画する

第18回　計画に基づき、セッションを実施する①：計画について確認、検討を行う

第19回　計画に基づき、セッションを実施する②：目標の再検討、活動の再検討

第20回　計画に基づき、セッションを実施する③：具体的な活動の流れの検討と記録の確認

第21回　計画に基づきセッションを実践する④：後期における対象児のランニングアセスメント

第22回　計画に基づきセッションを実践する⑤：ランニングアセスメントに基づく対象児の査定の確認

第23回　計画に基づきセッションを実践する⑥：査定に基づく目標の再確認と活動の見直し

第24回　計画に基づきセッションを実践する⑦：実践された活動の振り返り(1)伴奏の再確認

第25回　計画に基づきセッションを実践する⑧：実践された活動の振り返り(2)使用楽器の再確認

第26回　計画に基づきセッションを実践する⑨：実践された活動の振り返り(3)楽器の使用法の再確認

第27回　計画に基づきセッションを実践する⑩：実践された活動の振り返り(4)治療構造の再確認

第28回　計画に基づきセッションを実践する⑪：実践された活動の振り返り(5)指示の出し方、言葉かけの再確認

第29回　計画に基づきセッションを実践する⑫：実践された活動の振り返り(6)後期の活動の記録について

第30回　計画に基づきセッションを実践する⑬：後期のセッションを終了、　1年間のまとめをおこなう

履修上の注意

1年間、真摯な気持ちと態度で取り組むこと。担当教員のアドバイスを受けつつ、積極的・自主的な態度で実践に臨むこと。施設の職員と密な連携を取りながらセッションを進める。
なお、本科目では、原則として指導教員は、学生の専門的スキルを向上させるために、学生との定期的な面接指導や実習施設に訪問しての現地指導をおこなう“スーパーバイザー”としての立場をとる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

前期にアセスメント、後期に評価・まとめを作成し、提出する。

教科書・参考書

必要に応じて紹介する。

科目名－クラス名

音楽療法指導研究

曜日時限

他

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

教員の監督のもと、学部学生の実習指導の徐々に担当し、指導者としての経験をつむ。音楽療法家としても、教育者としても適切な指導のできる入門レベルのスーパーバイザーの養成を目指す。現場で考えたこと、突き当たった問題を担当教員とディスカッションし、アドバイスを受ける。担当教員の指導法を参考にして、指導する立場に慣れていく。指導への意欲や責任感、問題意識、学部生への対応が適切に行えたかを総合的に評価する。

学修成果

学部学生の実習指導の一部を担当できるようになる。各実習生の課題等について、指導教員と意見を交わすことができるようになる。実習生が円滑に実習がおこなえるように、適切な援助が独力で考えられるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション：前期（第1クールでは、まず指導教員の実習生への指導の仕方を学ぶ、そして教員の指導のもと、学生が徐々に実習生を指導する場面を設け、指導の仕方を検討していく。）

第2回　対象児についての理解を実習生が深められるように考える。（第1クール）

第3回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階でできる指導について検討する。

第4回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階で指導をする。

第5回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックの進め方・内容について検討する。

第6回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックで指導をする。

第7回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中の指導について検討する。

第8回　クール最後のセッションが円滑にできるように指導をする。

第9回　対象児についての理解を実習生が深められるように考える。（第2クール：指導教員の指導のもと、学生が実習生を指導できる場面を徐々に増やしていく。）

第10回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階でできる指導について検討する。

第11回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階で指導をする。

第12回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックの進め方・内容について考える。

第13回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックで指導をする。

第14回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中に指導をする。

第15回　前期最後のセッションが円滑に実施できるように指導をする。

第16回　対象児についての理解を実習生が深められるように考える。（第3クール：学生が実習生を指導する場面を増やし、概ね独力で指導ができるようにする。課題が出て来た際は、指導教員と相談を重ねながら指導にあたる。）

第17回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階でできる指導について検討する。

第18回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階で指導をする。

第19回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックの進め方・内容について検討する。

第20回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックで指導をする。

第21回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中の指導について検討する。

第22回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中に指導をする

第23回　クール最後のセッションが円滑に実施できるように指導する。

第24回　対象児についての理解を実習生が深めらるように考える。（第4クール：学生が全ての場面において独力で実習生を指導する。課題が出て来た際は、速やかに指導教員の指導を仰ぐ。）

第25回　実習生が円滑なセッションができるように、準備の段階で指導をする。

第26回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックの進め方・内容について検討する。

第27回　実習生が円滑なセッションができるように、フィードバックで指導をする

第28回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中でできる指導について検討する。

第29回　実習生が円滑なセッションができるように、セッション中に指導をする。

第30回	最後のセッションが円滑に実施できるように指導する。

履修上の注意

実習指導を行う実習場所は、対象領域への関心も含め、学生と教員が相談して決定する。指導にあたっては、対象となる学部生それぞれの個性に合わせた対応を心がけること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

指導者として、学生から提出された記録用紙にも目を通し、可能な範囲でアドバイスなどを記述すること。また自分の成長を客観的に分析する時間を設け、担当教員から指導を受ける時間を教員と相談の上、時間外に設けること。

教科書・参考書

必要に応じて、適宜指示する

科目名－クラス名

音楽芸術運営特別演習②

曜日時限

他

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
その他	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

大学院における学修の仕上げとしての修士論文を執筆にむけて、論文を作成することを目的とする。文献・資料の検索や分析方法などの研究技術を高め、論文の中間発表、口頭発表に向けて指導教員と相談しながら、準備をすすめる。指導はゼミ形式で行われ、手順にそって論文を完成させる。

学修成果

論文において、その内容の論理性が認められる。また、その形式が学術的に適切であることが認められる。その内容の社会的意義や専門分野への貢献が期待できる。その内容に新たな視点（ノイエス）が認められる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　研究の背景と意義（１）：背景について

第3回　研究の背景と意義（２）：意義について

第4回　先行文献の検討（１）：国内の先行文献　①　音楽療法の領域の文献

第5回　先行文献の検討（２）：国内の先行文献　②　日本音楽療法学会の先行文献

第6回　先行文献の検討（３）：国内の先行文献　③　関連領域の文献

第7回　先行文献の検討（４）：国外の先行文献

第8回　方法（１）対象者の確認、倫理の問題の確認

第9回　方法（２）方法の設定（計画に沿った実施の確認）

第10回　方法（３）測定法などの確認

第11回　データ分析（１）：データーの収集開始

第12回　データ分析（２）：データーの収集確認

第13回　データ分析（３）：収集されたデーターの整理

第14回　データ分析（４）：収集されたデーターのまとめ

第15回　前期のまとめ

第16回　中間発表準備（１）、データのまとめ

第17回　中間発表準備（２）、データのまとめ　表、グラフへの書き方、発表の確認

第18回　結果（１）：結果の書き方について

第19回　中間発表

第20回　結果（２）：結果のまとめ

第21回　結果（３）：結果から考察への導き方

第22回　考察（１）：考察の書き方とまとめ方

第23回　考察（２）：考察の再考

第24回　考察（３）：考察の再考（研究の目的とのつながり）

第25回　文献表その他（１）：論文の校正

第26回　文献表その他（２）：文献の番号、誤字脱字等の校正

第27回　論文全体の最終確認：提出版の準備と確認

第28回　本発表準備（１）：口頭発表に向けてＰＰＴの準備

第29回　本発表準備（２）：ＰＰＴのリハーサル

第30回　本発表準備（３）：口頭発表の最終調整

履修上の注意

テーマを設定し、研究の目的を常に意識しながら論文執筆を行う。スケジュールや順序は、個々の学生の研究テーマや臨床の環境等によって変更される。このクラスでは、学部生の「卒業論文」の内容とも連動しながらおこない、中間発表、口頭発表の日程および時間についても同様とする。但し、これらの日程は変更となる場合があるので、掲示等で必ず確認をすること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

各自の研究内容に応じて、各段階で課せられた課題を着実にこなすこと。
文献の検討および執筆に少なくとも週240分は取り組むこと。
課題について、各担当からコメントする。

教科書・参考書

適宜指示する。

科目名－クラス名

博士論文演習①

曜日時限

他

担当教員

二俣　泉

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	70	0	30	0	100

教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って博士論文を執筆する。
論文執筆に向けた第一段階として、多様な資料やデータを収集、分析し、テーマ設定を明確にする。
研究テーマに関する先行研究を客観的・体系的に検証する。
テー歌に関するトピックについて論文を執筆し、大学の紀要等に投稿することが望まれる。

学修成果

正確なデータの収集と分析、多様な資料の読み解きを通じて、専門分野に関する幅広い知識と独自性を伴った視点を養い、それを言語化できるようになる。
投稿論文等の執筆に必要な能力を身につけられる。

授業展開と内容

第1回	全30回の授業の進め方は別紙記載のとおり
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

研究進捗・論文執筆状況を報告できるよう、各回、準備をして臨むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

小論文の執筆を積み重ねること。プレゼンテーション能力の向上に努めること。

授業（ゼミ）に向けた準備を必ずおこなうこと（週あたり60分以上）。
フィードバックは授業時間内におこなう。

教科書・参考書

授業で検討、適宜指示をする。

2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2915　教員名：二俣 泉

１）評価結果に対する所見

大学院修士課程の１年生で開講されている「音楽療法技能特別演習Ⅰ（障害児)」について述べる。

評価については、10の設問のうち８つで「そう思う」との回答が100%であり、この授業についての満足度は高いと思われた。

Q２の「シラバスの内容に基づいて行われているか」については、科目平均から若干低い点数になっている。この授業は、音楽療法の技能を教育するものだが、受講者の音楽技術に関する背景がかなり異なる（本学の学部出身者、他の音大出身者、一般大学の出身者）ため、各学生の技術や習熟度に合わせて授業内容を柔軟に変更しているため、シラバスから若干の変更がなされている。これは、授業の性質上、また学生の教育においても必要なことであり、この設問の点数が若干低いことについては、この授業の問題ではないと思われた。

２）要望への対応・改善方策

自由記述において、特段の要望は記述されていなかった。

３）今後の課題

全体的には授業の満足度は高いため、この授業については、現行の内容は適切と考えられた。

以　上